

豊予海峡ルートがもたらす地域振興への効果

2001年3月 西瀬戸レインボープラン（豊予海峡交流圏地域振興調査）

圏域の一体性の向上

広域交流の強化を図るうえで、豊予海峡ルート等の整備によるモビリティの改善が不可欠です。

生活活動の機会と規模の増大

交流可能圏域は約1.5倍にまで拡大し、生活活動の空間的「自由度」の向上と「機会均等」をもたらす、多様なライフスタイルが可能になります。

市場拡大と地域経済の活性化

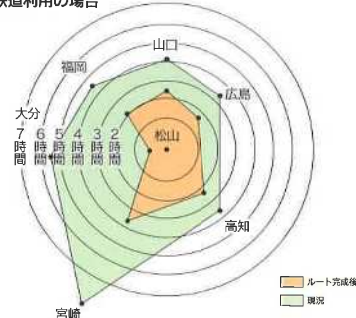
経済活動範囲の拡大によって、産業活動のポテンシャルは約1.3倍にまで向上し、地域経済の活性化が図れます。

圏域の一体性の向上（主要都市を3時間で結ぶ豊予海峡ルート）

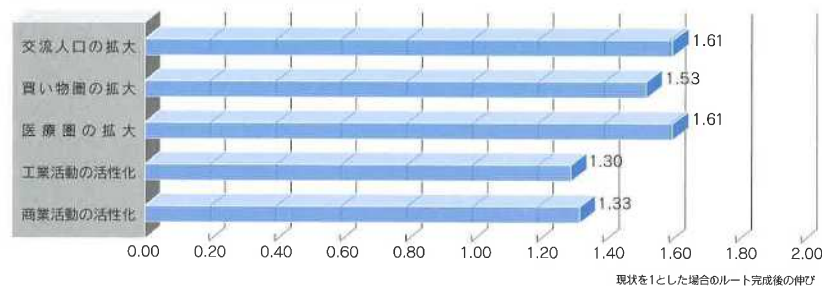
■道路利用の場合



■鉄道利用の場合



生活機会の増大と産業活動の活性化



「列島がkissする。いま、豊予海峡から。」



豊予海峡ルート推進協議会

広島県、山口県、愛媛県、高知県、福岡県、大分県、宮崎県、(一社)中国経済連合会、四国経済連合会、(一社)九州経済連合会、広島県商工会議所連合会、山口県商工会議所連合会、愛媛県商工会議所連合会、高知県商工会議所連合会、福岡県商工会議所連合会、大分県商工会議所連合会、(一社)宮崎県商工会議所連合会

豊予海峡ルートの実現に向けて

豊予海峡ルート推進協議会



21世紀の新たな国土構造を担う豊予海峡ルート

新しい国土像の実現

平成20年7月に閣議決定された国土形成計画は、多様な広域ブロックが自立的に発展する国土を構築するとともに、美しく、暮らしやすい国土を形成することをめざしています。そのためには多種多様な特色を持つこれらのブロックが相互に交流・連携し、その相乗効果によって活力ある国土を形成していくことが必要です。

太平洋新国土軸構想

太平洋新国土軸構想は西日本国土軸に代表される内海を中心とした20世紀型の国土利用から、外海に開かれ環境と開発が調和した21世紀型の国土利用への転換を先導し、国内のみならずアジアや太平洋地域とも交流・連携する「外洋性の新たな国土軸」の創造を図るものです。

このことにより、東海から紀伊半島、四国、九州を経て沖縄に至る地域に海洋による地域のつながりと森林、河川、沿岸域の豊かな自然条件を生かして、都市のネットワークと自然のネットワークが重層的に共生する「多自然居住地域」を形成し、西日本における広域経済文化圏を創造するとともにアジア・太平洋地域との経済・文化交流を通じて活力ある新国土軸を構築することを目指します。

また、この構想の推進は、国土軸を支える交通・情報通信基盤等の整備を通じて災害時の備えにも役立つものです。



豊予海峡ルート

豊予海峡ルートは愛媛県佐田岬半島と大分県佐賀関半島を隔てる約14kmの豊予海峡を架橋や海底トンネルで結ぼうとする構想であり、太平洋新国土軸の一翼を担うとともに、西瀬戸経済圏を形成する上で非常に重要な役割を担います。

平成11年に中国と四国を結ぶ西瀬戸自動車道(瀬戸内しまなみ海道)が開通し、また中国横断自動車道、四国縦貫・横断自動車道、東九州自動車道など高速交通ネットワークの整備が進むことにより、中四国地域連携軸や東九州軸などの広域的な交流・連携が促進されます。豊予海峡ルートが結ばれると、西瀬戸地域の環状交通体系が形成されることとなり、中国、四国、九州が密接に連携する広域経済文化圏が構築されます。

